

千葉県酪農のさと 嶺岡牧講演会

2022年度 第1回

# 馬頭観音に聴く嶺岡牧物語



嶺岡牧の木戸に建つ馬頭観音 嶺岡馬頭観音 19番

## 【目次】

嶺岡牧地域の馬頭観音に迫る……………	日暮 晃一	1
色々な馬頭観音……………	内田 正教	9
ミニ企画展		
撮ってみよう！ 詠ってみよう！ 嶺岡牧文化……………		17
平群の牛花火；地域でつくり育てた酪農文化……………		23



# 嶺岡牧地域の馬頭観音に迫る

日暮 晃一

わくわくドキドキ過ごして

## I. 路傍に稠密に建つ石仏の馬頭観音

嶺岡牧文化の一つとして、地蔵より多く路傍に建つ馬頭観音がある。しかし、嶺岡牧地域の馬頭観音に関する調査研究が無く、その実態は分か

っていなかった。そこで、まずは基礎データの収集を目的とし、2011年～2013年に馬頭観音の分布調査を行った。その結果は、日暮・千葉(2012a), 日暮(2012)等で速報してきた(図1)。



図1 「嶺岡牧散歩2 馬頭観音を訪ねて」で分布を速報(日暮・千葉2012)



この分布調査で、次の各点が確認された(図2)。

1) 嶺岡牧文化圏の内、鴨川市域と南房総市北部の野付村・野続村の範囲で450基の馬頭観音が建っている。2) 文字塔が60%、陽像が40%。3) 長狭郷に属する嶺岡牧の野付村・野続村域では、海岸部は陽像、東京湾岸との分水嶺に近づくにつれ文字塔に移る。4) 馬頭観音は安永期に建てられ始め、昭和までつくられる。5) 天明～天保は陽像が多く、幕末以降は文字塔が多くなる。6) 馬頭観音と同様な観音として牛頭観音、牛頭大日、牛明王がある。この馬頭観音群を広義の馬頭観音と総称できる。7) 長狭郷では牛頭観音は3基しか無く0.8%に過ぎないが、朝夷郷に属する区域では牛頭観音が32.4%、牛大日如来が2.0%を占める(水田 2019)。8) 牛頭観音は明治以降につくられる。

分布調査以降、エクスカージョン等を行い、嶺岡牧地域の馬頭観音文化について興味の喚起や認知度を高める活動を行ってきた。馬頭観音エクスカージョンは多くの参加者が集まり、多くの人から馬頭観音は魅力的にみられているこ





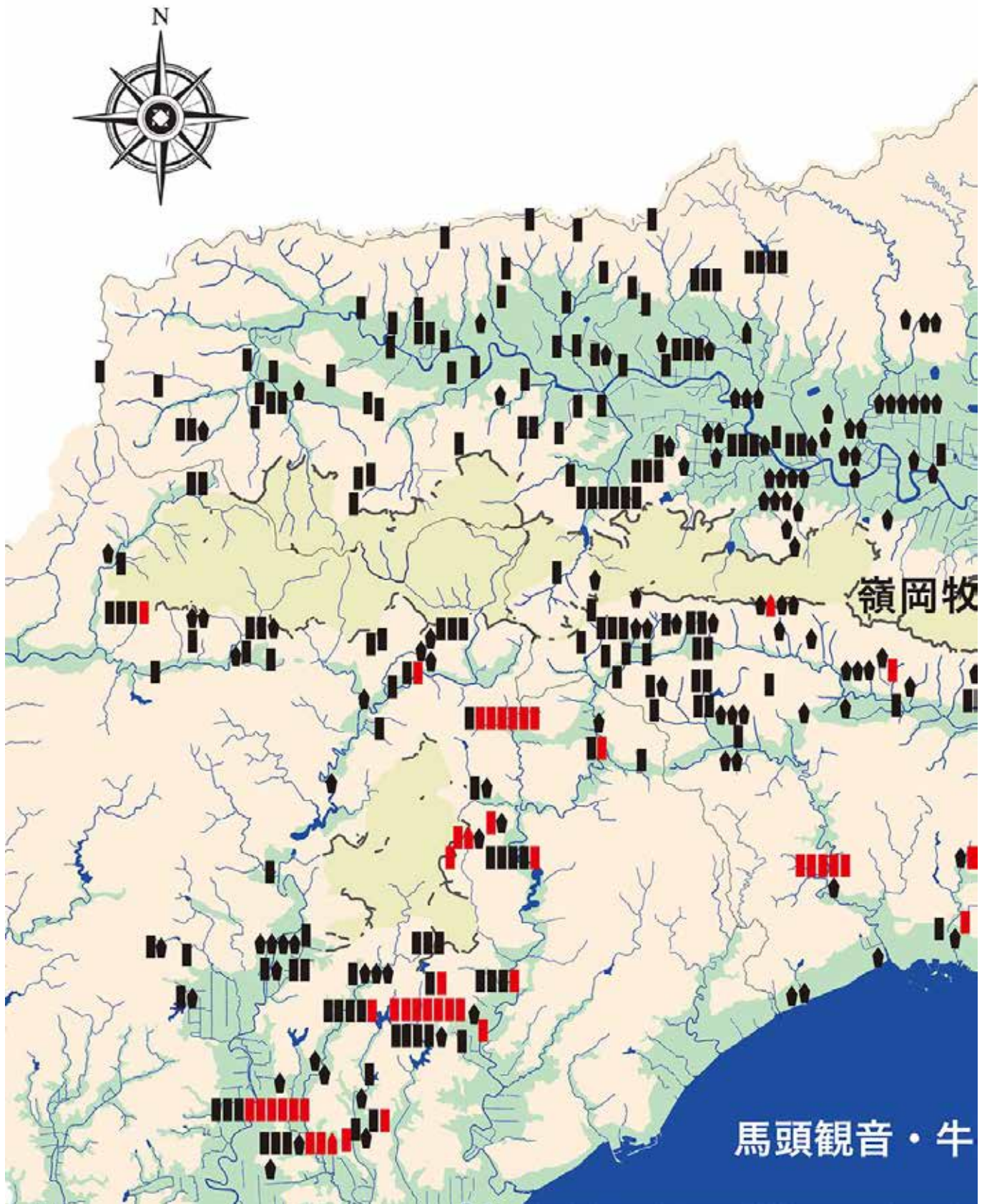
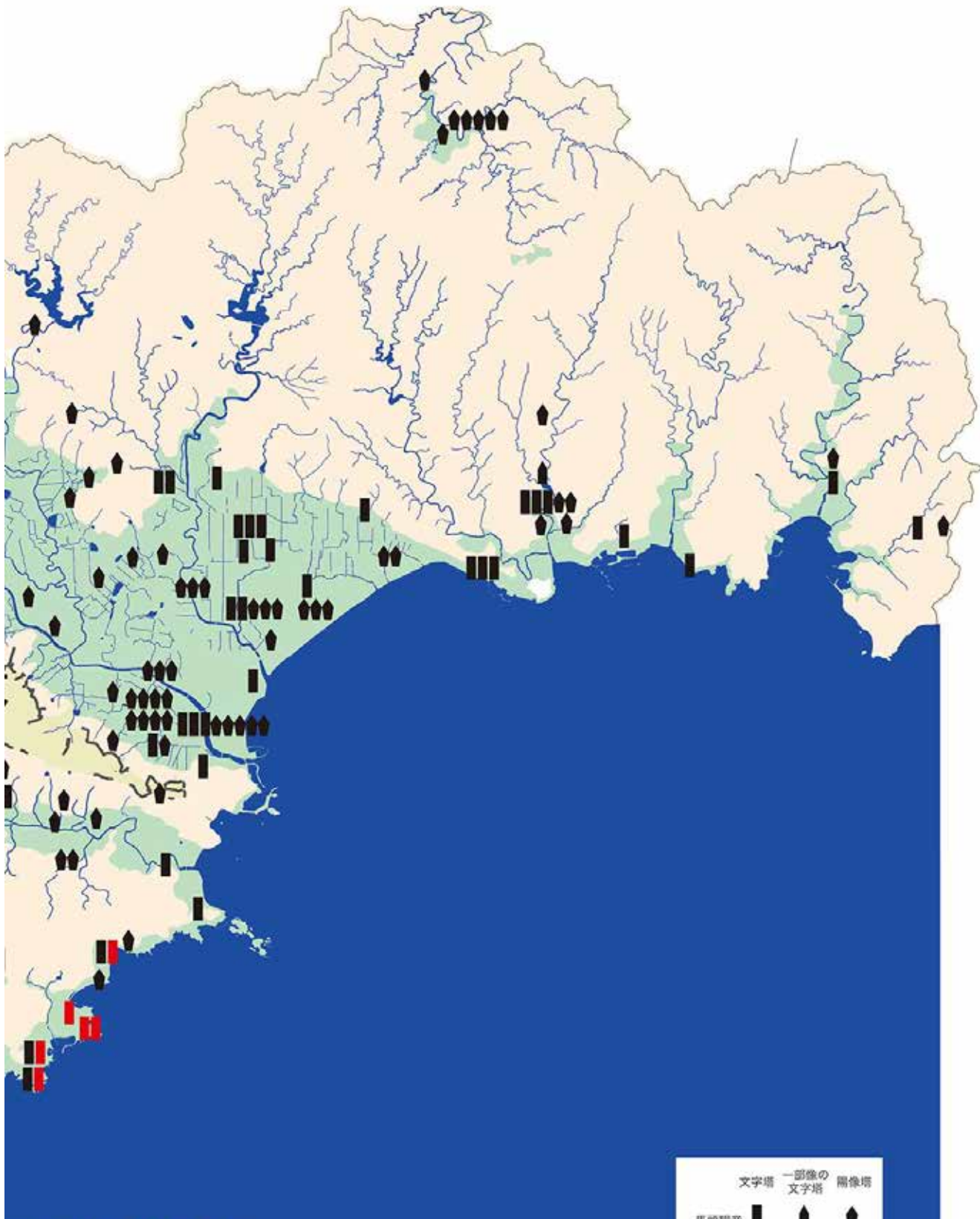


図2 馬頭観音群の種類別分布状況



# 頭観音の分布

0 1km

	文字塔	一部像の文字塔	画像塔
馬頭観音	■	⬆	⬆
牛頭観音	■	■	■



とが分かった。しかし、こうした活動を行っていくに従い、嶺岡牧地域の馬頭観音の姿が掴めていないこと、そしてそれに接近できるデータを得ていないことが問題として浮き上がってきた。そこでここでは、文化圏の把握及び型式論、技術論、流通論の視座から嶺岡牧地域の馬頭観音に迫るための方法について整理することとする。

## II. 嶺岡馬頭観音圏を捉える

嶺岡牧地域の馬頭観音は、坐像、僧衣、瞑目相、合掌印の像が多く、立像の多い千葉地域と異なっている。しかし、改めて嶺岡馬頭観音文化圏を示そうとすると、感覚で引いた線でしか無くなる。それは、1) 嶺岡牧周辺の馬頭観音調査が長狭郷東北部を除いて嶺岡牧の野付村・野続村に限られているため、同じ特徴を持つ馬頭観音の密度変化を捉えられないこと、2) 嶺岡牧地域以外の地域ではどこにどの様な馬頭観音が分布しているのかを知るデータが公表されていないこと、による。

この問題を解決するには、1) 嶺岡牧地域外に及ぶ馬頭観音を中心とした石仏に関する地名表及び分布地図の整備、2) 同一基準に基づいた広域でのデータ採録、3) 地名表のデータを検証する画像データの整備、が行われたデータベースの構築が急がれる。また、それを実現するためのコミュニティの創設は必須といえよう。

## III. 馬頭観音の形を捉える

馬頭観音データベースを整備する上で課題となるのが、形をどの様に採録するかということ、すなわちその基準をいかにするかという点にある。この点を改善するには、すべて3次元印刷できるデータを整備することが好ましいが、検索するには類型基準が必要となる。

日本石仏協会編(2011)の墓塔の類型が広く使われている(図3)。しかし現地では相対した馬頭観音は、正面から見ると舟型であっても側面は板状や柱状であったり、その逆で正面は駒型でも側面から見ると舟型をなしている例は多く、そのまま

では実態を捉えるデータたり得ないといえる。また、舟型でも、最大幅になったところから底まで同じ幅のもの、葱坊主形になるもの、底が広まるもの、鐘形になるもの、幅の中央が高くなるものやその逆に凹むものなど様々である。2011年の馬頭観音調査でこの問題に気づき、これらをデータ化する方法を整理し記載を行った(図4)。だが、それでもこれまでの類型にとらわれ、平面と側面の分離が不十分で、実態を正しく捉えることを妨げた。

編年整備となる採録には以下が求められる。1) 検索に用いられ実態に迫るデータともなるよう、平面形、側面形、上面形をわけてその形状を捉え、各ポイントの計測値を明示する。2) 顔、馬頭、印など細部の詳細データを整備し認証分析を行う(図4)。3) 静態的分類で無く動的なポジショニングで捉えるようにする。

【墓塔】ばとう



図3 日本石仏協会編(2011)の類型区分

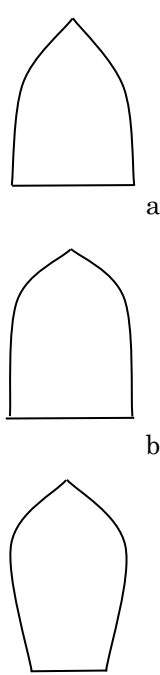
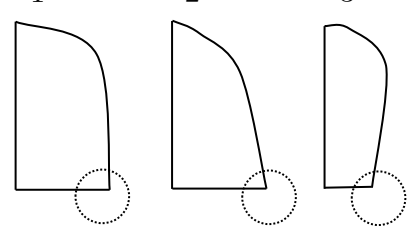
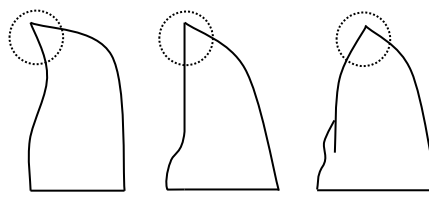



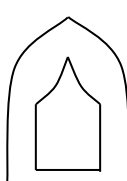
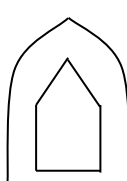
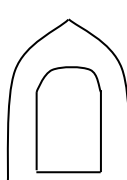
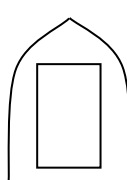

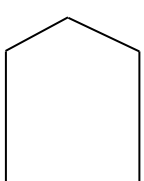
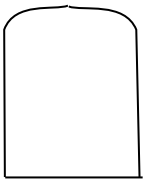
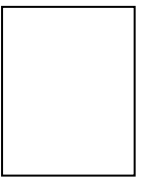
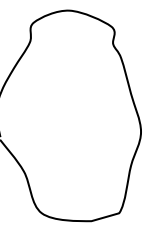
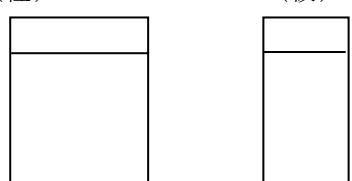
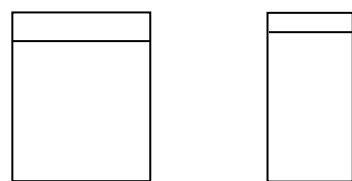
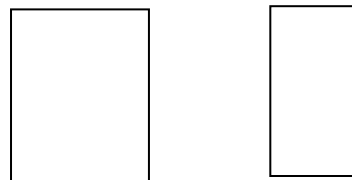
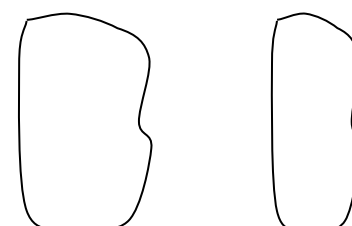
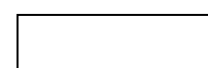

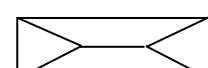
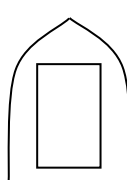

平面	側面	上面	複合
<p>I</p>  <p>a</p> <p>b</p> <p>c</p>	<p>(後底部)</p> <p>1 2 3</p>  <p>(前頭部)</p> <p>a(内傾) b(垂直) c(外傾)</p> 	<p>イ</p>  <p>ロ</p>  <p>ハ</p> 	<p>1</p>  <p>2</p>  <p>3</p>  <p>4</p>  <p>5</p> 
<p>II</p>  <p>III</p>  <p>IV</p>  <p>V</p> 	<p>1(柱) 2(板)</p>    	<p>イ</p>  <p>ロ</p>  <p>ハ</p> 	<p>4</p>  <p>5</p> 

図4 2011年の馬頭観音調査で用いた分類(日暮・千葉 2011b)

#### IV. 製作技術を捉える

銘は様々な情報をもたらす。しかし、それを検証せずに用いると誤った結論に導く危険性がある。そこで重要になるのが製作技術である。製作技術は時代により変化する。従って、馬頭観音がどの様に製作されたのかが分かるよう記録し、そこから嶺岡馬頭観音の特徴に迫ることが求められる。

#### IV. 流通過程を捉える

嶺岡山は採石の山でもある。本地域の馬頭観

音の大半は嶺岡山産の石材を用いている。同じ蛇紋岩や砂岩でも場所により性状が異なる。パテナやミネラルの特徴など石材の特徴を記録し、生産地と消費地を捉え、その流通と石材生産地を起点とした結節地域を捉えるとともに、嶺岡馬頭観音にかかわる社会に接近をはかる。

#### VI. 嶺岡馬頭観音文化とは何か

以上でみたように、嶺岡馬頭観音文化に迫る調査研究は今後に残されている。多方面に渡っ

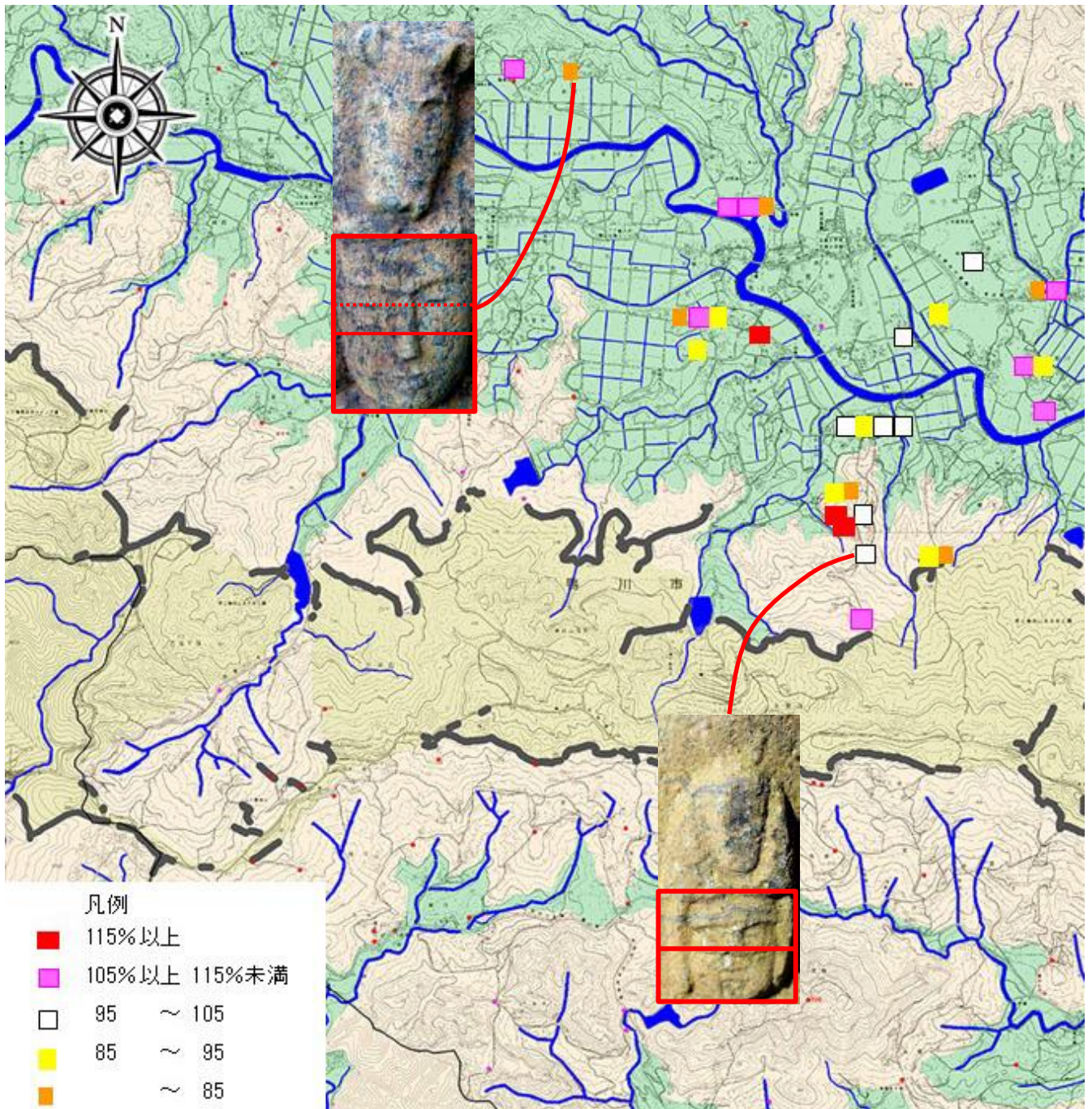


図5 顔の縦横比からみた馬頭観音の分布



て調査分析方法の開発を行い、それに従ってデータ整備をはかり、分析を行うことになる。やることは多く、日暮れて道遠しの感が強いが、一步一步着実に歩を進めて行く所存である。

#### 【文献】

日暮晃一(2012)嶺岡牧 嶺岡牧再生にかかわる基礎調査報告書, NPO 法人エコロジー・アーキスケーブ/鴨川市総務部企画政策課, pp.17-22.

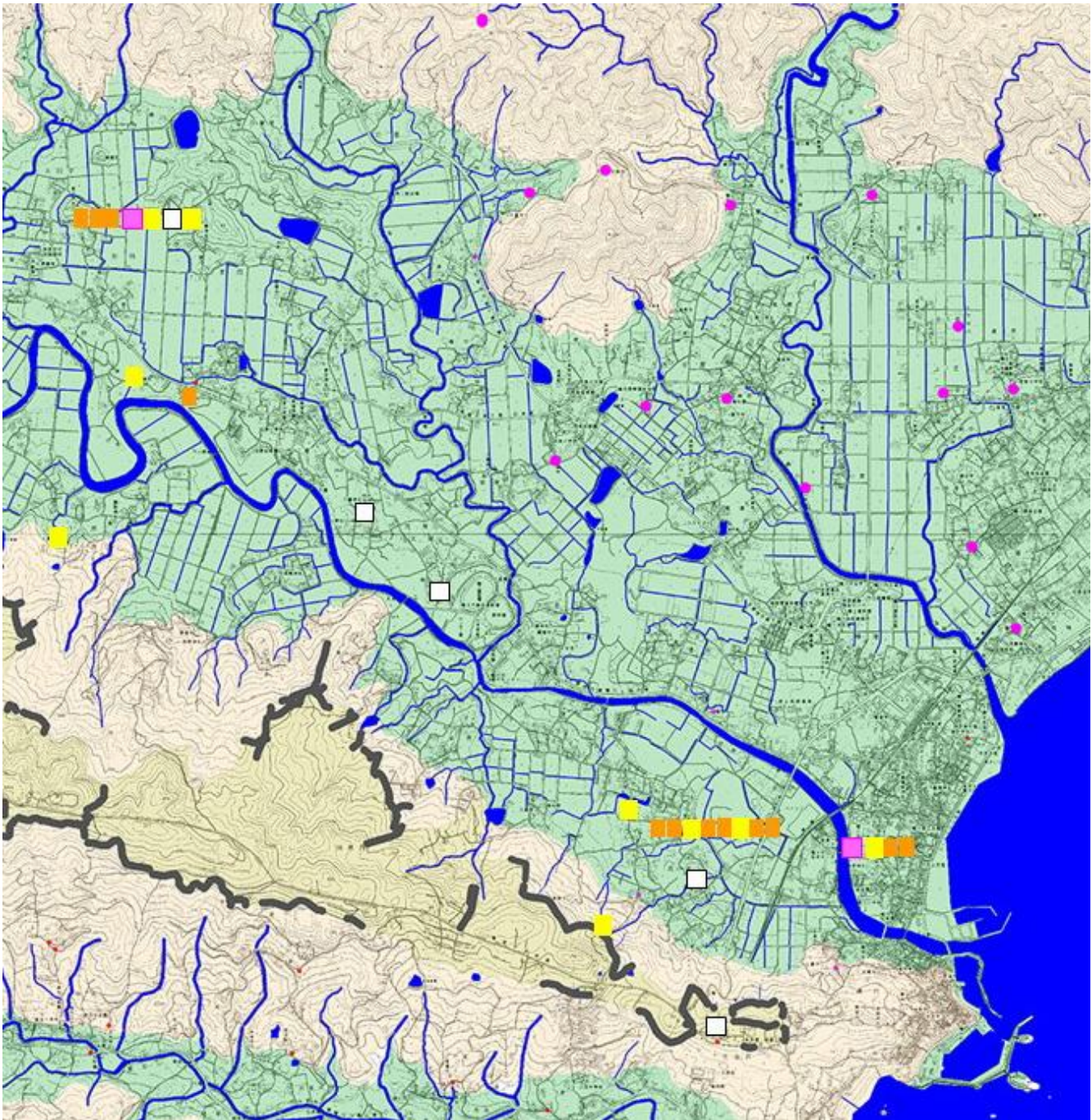
日暮晃一, 千葉いずみ(2012a)嶺岡牧散歩2 馬頭観音を訪ねて, NPO 法人エコロジー・アーキスケーブ/鴨川市総務

部企画政策課.

日暮晃一, 千葉いずみ(2012b)嶺岡牧及び嶺岡牧周辺地域における馬頭観音分布確認調査結果, 鴨川市嶺岡牧再生計画(兼平成24年度鴨川市嶺岡牧再生計画策定業務事業報告書)～嶺岡牧の活用による地域活性化に係るシナリオの方向性～資料編, 鴨川市(総務部企画政策課), p.2.

水田稔(2019)嶺岡牧周辺の馬頭観音, 嶺岡牧研究発表会・シンポジウム 第1回 要旨, 嶺岡牧を知って活用を考える会, pp.9-12.

日本石仏協会編(2011)新版 石仏探訪必携ハンドブック, 青娥書房, p.35.



# 色々な馬頭観音

内田 正教

日本写真倶楽部

## はじめに

私は、ただの写真撮影の愛好家で、僧侶でも研究者でもない。被写体の一つに石仏が有り、特にテーマとして「馬頭観音」を撮影している。よって、仏教・仏像・石仏のことは良く解っておらず、受け売りである。

## I. 馬頭観音について

仏教では、全ての衆生が六道に輪廻すると説いている。六道とは、私たちが生まれ変わる可能性が有るすべての世界を言う。六道は、地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人間・天上の六つの世界である。この六道に迷う私たちを救うという観世音菩薩の化身が六観音。六観音は、聖観音・千手観音・馬頭観音・十一面観音・准胝観音・如意輪観音である。

馬頭観音は、六道のうち畜生道を担当する。馬頭観音は、馬が草をむさぼるように、一切の魔障や煩惱を打ち伏せて救済する。馬頭観音は、明王部に編入し馬頭明王になる。編入するのは馬頭観音のみである。

## II. 馬頭観音の姿について

### 1. 仏教的な馬頭観音

寺院にある仏像は、膨大な仏教經典に説かれた仏の姿に従って造られる。この姿を絵にまとめた図像、「仏像図彙」というものが有るそうだ。仏像を造る仏師はこれを忠実に再現しなければならないとされている。石仏を刻む石工も同じとされている。

しかし、石仏の馬頭観音は、様々な姿があり決まった像容ではない。顔と手が、一面二臂・一面四臂・三面四臂・三面六臂・三面八臂・四面八臂など。目は、二眼・三眼（おでこに一眼）。表情が慈悲相でなく、目じりを吊り上げ、逆立つ髪、牙をむくなどの忿怒相。怒りは煩惱でうじうじしている衆生の目を覚まさせる、優しいだけが慈悲ではない。

全ての像の共通点は、馬頭観音という名の通り、馬の頭の形を頭上にいただく。胸の前で合掌したように見える手は、「馬口印」という特殊な印相を結ぶ。六観

音では馬頭観音は立像。有名な福岡の観世音寺の木造も立像。座像の場合は、片膝を立てた独特の座り方で、足の裏を合わせる輪王座。

私は、上記のような馬頭観音を仏教的な馬頭観音ということにしている。また、下記のような馬頭観音を庶民的な馬頭観音ということにしている。

### 2. 民間信仰の馬頭観音

近世江戸時代に入り、世の中が落ち着き、色々な庶民信仰が盛んになった。庶民信仰の祈念碑として「庚申塔」「月待塔」「道祖神」などが建立されている。

馬は、軍馬や農耕馬として重用され、荷役馬は輸送手段の主力であった。農家も馬方も、毎日馬と過ごし、語り合い、家族同様に生活してきた。馬頭観音は、六道のうち畜生道を担当するという解釈がある。馬頭観音が牛や馬の守り神として、庶民に信仰されるようになった。路傍に見る馬頭観音の石仏や文字塔は、牛馬を埋葬した墓ではない。牛馬の無病息災や長寿・安産・安全などを願うもの、または供養塔である。

庶民的な馬頭観音の像容は、穏やかな表情の一面二臂像と文字塔がほとんどである。中には仏教的な馬頭観音の像容のものも見られる。文字塔には、馬頭観音・馬頭観世音と刻む塔が多い。馬頭観世音菩薩・馬頭明王・馬頭大士・馬頭尊などと刻むものもある。地域的なものに、同様な信仰から建てられた、馬力神・駒形神などがある。時が経つにつれ、造立数が飛躍的に増えた。

施主・造立者も馬持衆や馬方講中などの団体よりも個人による造立が多い。中には石工によるものと思えない、馬主によるものと思うものもある。

馬頭観音は、馬が農耕馬・荷役馬として活躍したので、平野部から山間部まで存在する。時には、路傍に佇む馬頭観音の基礎などが道標になっているものがある。

馬頭観音は線香・卒塔婆を供える仏教式と、しめ縄・榊を供える神道式がある。



昨今は、道路の拡張や宅地の造成で、本来あるはずのない神社やお寺に路傍や辻から持込まれた庶民的な馬頭観音も見られる。

庶民的な馬頭観音の分布は、関東（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川）、東海甲信越（愛知・岐阜・静岡・山梨・長野・新潟）（福島）に見られる。

### Ⅲ. いろいろな馬頭観音

自然の中に何げなく佇む地味な石仏、今まで素通りしていた街中の石仏、石仏に興味を持つようになって、

今は立ち止まり眺め観察する。写真を撮る楽しみに加え、この石仏をどんな人がどんな思いで造ったのか、あれこれ想像する楽しみも出来た。馬頭観音が石仏の中で、仏教的な面と庶民的な面があること、ローカル色豊かであること、他の石仏に比べ数が多いこと、が私にとって馬頭観音の魅力だ。

決して上手い写真ではない、今までに撮ったいろいろな馬頭観音を見ていただき面白いな、楽しいな、いろいろあるんだなと思っていただけたら幸いである。

#### 変わった馬頭観音



1 No.100 東京都練馬区 本寿院



2 No.48 山梨県都留市 円通院



3 No.408 長野県生坂村 乳房堂



4 No.95 群馬県下仁田町西野牧 路傍



5 No.247 福島県本宮市 岩角寺



6 No.139 山梨県北杜市須玉町 路傍





7 No.150 長野県松本市 上波田阿弥陀堂



8 No.79 静岡県下田市 本覚寺



9 No.23 山梨県韮崎市 涙の森史跡

## 各地の馬頭観音



1 No.427 宮城県松島町瑞巖寺



2 No.314 宮城県松島町雄島



3 No.282 福島県矢吹町 三十三観音磨崖仏



4 No.472 新潟県十日町市長徳寺千手観音堂



5 No.512 新潟県長岡市山古志





6 No.476 栃木県足利市行動山浄因寺奥の院



7 No.503 群馬県みなかみ町新治匠の里



8 No.475 群馬県みなかみ町路傍



9 No.494 群馬県安中市館



10 No.481 群馬県川場村吉祥寺



11 No.459 群馬県川場村吉祥寺



12 No.523 群馬県中之条町路傍





13 No.462 群馬県中之条町六合地区 役場裏小雨馬頭観音



14 No.417 埼玉県吉見町岩室観音



15 No.436 東京都東村山市長園寺



16 No.509 東京都品川区天龍寺



17 No.426 東京都品川区路傍



18 No.557 神奈川県藤沢市江の島洞窟内



19 No.465 山梨県山梨市霊岸寺(万力百観音)



20 No.369 山梨県北杜市海岸寺





21 No.517 山梨県北杜市清泰寺



22 No.568 長野県白馬村葺平観音堂



23 No.518 長野県安曇野市路傍



24 No.457 長野県安曇野市路傍



25 No.527 長野県御代田町長秀院



26 No.515 長野県佐久市大関伽流山



27 No.493 長野県佐久市大関伽流山



28 No.478 長野県佐久市滝観音





29 No.488 長野県佐久市路傍



30 No.467 長野県大町市観音寺



31 No.452 長野県筑北村修那羅山安宮神社



32 No.505 長野県筑北村路傍



33 No.482 長野県東御市路傍



34 No.374 長野県白馬村観音原



35 No.479 長野県白馬村八方路傍



36 No.496 長野県立科町無量寺



37 No.526 静岡県伊豆市段原観音堂





38 No.458 静岡県下田市宝徳院



39 No.506 愛知県豊橋市岩屋観音



40 No.521 愛知県豊川市音羽浄泉寺百観音



41 No.393 奈良県奈良市般若寺



42 No.349 香川県高松市四国八十五番札所八栗寺



44 No.418 大分県豊後大野市宇対瀬不動尊



43 No.341 広島県尾道市千光寺



45 No.322 大分県竹田市観音寺





「馬頭観音を巡る」で撮った写真

嶺岡牧エクスカーションで詠んだ短歌

# 嶺岡牧ミニ企画展 撮ってみよう！ 詠ってみよう！ 嶺岡牧文化

千葉県酪農のさと酪農資料館第三展示室  
2022年4月20日(水)～5月31日(火)  
開館9:30～16:30 月曜休館 入館無料

千葉県酪農のさと

〒299-2507 千葉県南房総市大井686 Tel. 0470-46-8181 e\_mail info@e-makiba.jp

千葉県酪農のさと / NPO 法人エコロジー・アーキスケーブ / 嶺岡牧スチュワード協会



「馬頭観音を巡る」写真入賞作品 講評 水田 稔（日本旅行写真協会会員）



最優秀賞

「貝渚木戸のたてがみ馬頭観音」 薛 雅春

たてがみ付きの珍しい馬頭観音を上からの斜光線を利用してうまく表現しています。制作年代がわかるのも効果的です。



優秀賞

「第37番長泉寺前青年館西脇」 鈴木 澄枝

撮影時野光線状態が成功のポイントです。石の質感と馬頭観音の特徴がよく表現されています。



優秀賞

「巨石のぬくもり」 内田 正教

大きな文字塔のかたわらでスポットライトをあびているかのような馬頭観音にぬくもりを感じます。周囲を取り囲んだことで馬頭観音の存在感が出ました。



優秀賞

「無心の祈り(4)」 實方 堯年

祈りの表情をアップでとらえて、画面をややなめにかたむけることで動きが出ました。陰の部分が立体感を醸し出しています。





優秀賞

「色とりどりに座します」 白石 典子

馬頭観音をふくむ石仏群を正面からとらえて、それぞれの陽像の違いや石材の違いが興味深くみえます。おかれた状況もよくわかります。



佳作

「(無題)」 殿岡 崇浩

下からのアングルで崇敬の念を感じさせます。頭上の大きな馬頭の存在感がお見事です。



佳作

「禍よ去れ！」 其日暮

三面の忿怒の表情と、めらめら燃える焰髪をドラスティックにとらえた、これぞ“馬頭観音”。禍も退散！



佳作

「山王台大森野馬土手下馬頭」 押本 敏治

馬頭観音がおかれた状況がよくわかります。逆光にもかかわらず陽像の立体感が表現されています。



## 詠ってみよう！嶺岡牧文化

腹減った  
なぜに煮えてぬ  
らっこなべ  
くちとあけつ  
見る火種

伸

首伸びて  
腕舐められて  
べとべとに  
牛の温もり  
今は思い出

其日暮

ひと昔  
だんごやあったね  
新発見  
食べた気分で  
お腹満腹

聡子

懸命に  
案内をする  
スチワード  
ひとり遅れて  
現地楽しむ

其日暮

空を舞う  
牛の花火と  
しのびつつ  
平久里の郷の  
牛舎みら行く

みのる

美味かった  
ミルクスイーツ  
賞をとり  
人気になって  
期待はずれに

其日暮

過ぎし日の  
賑わい語る  
此里に  
静かなる牛舎  
点々と在る

白石典子

正倫が  
詠んだ佳景を  
前にして  
スマホ覗いて  
何を見る

其日暮





嶺岡牧ミニ企画展

# 平群の牛花火

地域でつくり育てた酪農文化



花火で打ち上げられた 牛型落下傘

花火で打ち上げられた だるま型落下傘

千葉県酪農のさと酪農資料館第三展示室

2022年6月1日(水)～7月31日(日)

開館9:30～16:30 月曜休館 入館無料

千葉県酪農のさと

〒299-2507 千葉県南房総市大井 686 Tel 0470-46-8181 e\_mail info@e-makiba.jp

千葉県酪農のさと / NPO 法人エコロジー・アーキスケーブ / 嶺岡牧スチュワード協会



牛花火

<p>1. 乳牛 (ホルスタイン)</p>	<p>2. 伏姫牛 (F1 黒毛)</p>
	
<p>長さ 230 cm。胴高さ 90 cm。足長さ 75 cm。尾長さ 103 cm。</p>	<p>長さ 210 cm。胴高さ 90 cm。前足長さ 76 cm。尾長さ (75 cm)</p>
<p>3. だるま</p>	<p>4. 紙風船</p>
	
<p>左：高さ 68 cm。幅 46 cm。白：高さ 71 cm。幅 48 cm。右：高さ 72 cm。</p>	<p>左：高さ 49 cm。幅 51 cm。中：高さ 52 cm。幅 52 cm。右：高さ 53 cm。幅 43 cm。</p>
<p>5. 伏姫</p>	<p>6. パラシュート</p>
	
<p>高さ 220 cm。幅 59 cm。袖 80 cm。</p>	<p>全長 237 cm。笠高さ 83 cm。幅 65 cm。</p>





千葉県酪農のさと嶺岡牧講演会 2022年度第1回

馬頭観音に聴く嶺岡牧物語 要旨

ミニ企画展

2022年9月25日発行

編集・制作 NPO 法人エコロジー・アーキスケープ

発行 千葉県酪農のさと

